

第2章 燕市の障がいのある人の状況

1 障がい福祉の状況

(1) 障がいのある人の人数

① 障がいのある人の状況

手帳所持者の推移をみると、平成25年から平成29年にかけて、やや増加傾向となっています。総人口に占める割合は、平成25年と比較して平成29年は0.2ポイント高い5.5%となり、今後も増加の傾向が予測されます。

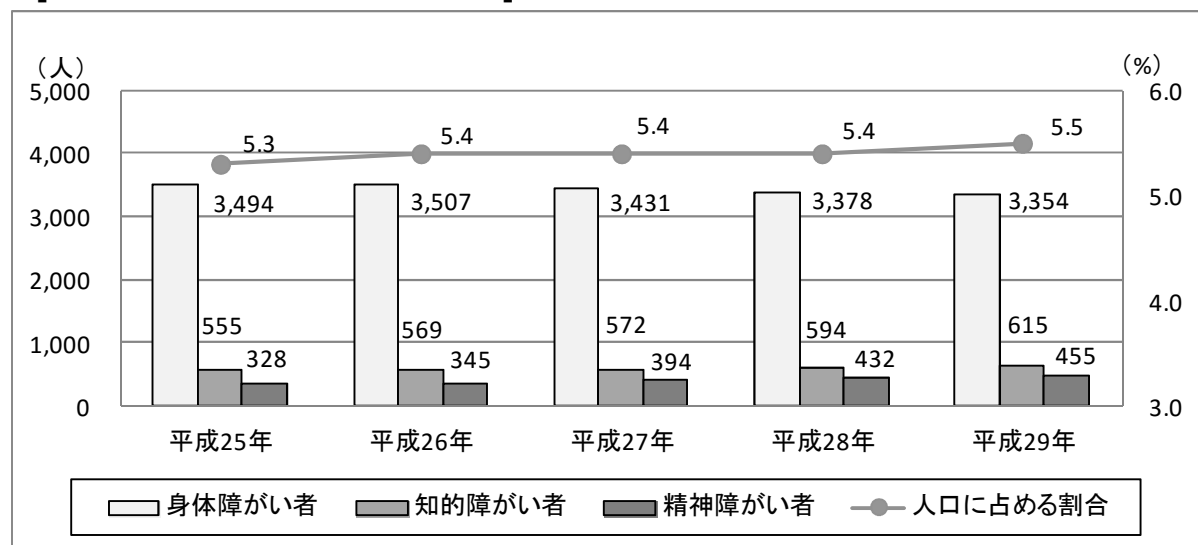
【総人口に占める手帳所持者総数の推移】

(単位：人、%)

区 分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総人口	82,782	82,364	81,917	81,465	80,909
手帳所持者総数	4,377	4,421	4,397	4,404	4,424
身体障がい	3,494	3,507	3,431	3,378	3,354
知的障がい	555	569	572	594	615
精神障がい	328	345	394	432	455
人口に占める割合	5.3	5.4	5.4	5.4	5.5

資料：住民基本台帳・障害者手帳台帳(各年4月1日現在)

【総人口に占める手帳所持者総数の推移】



② 身体障がいのある人の状況

障がい部位別の手帳所持状況をみると、各年とも肢体不自由が最も多くなっています。平成29年では、肢体不自由が2,063人と全体の61.5%となっています。次に内部障がいが741人で22.1%、聴覚・平衡機能障がい339人で10.1%の順となっています。

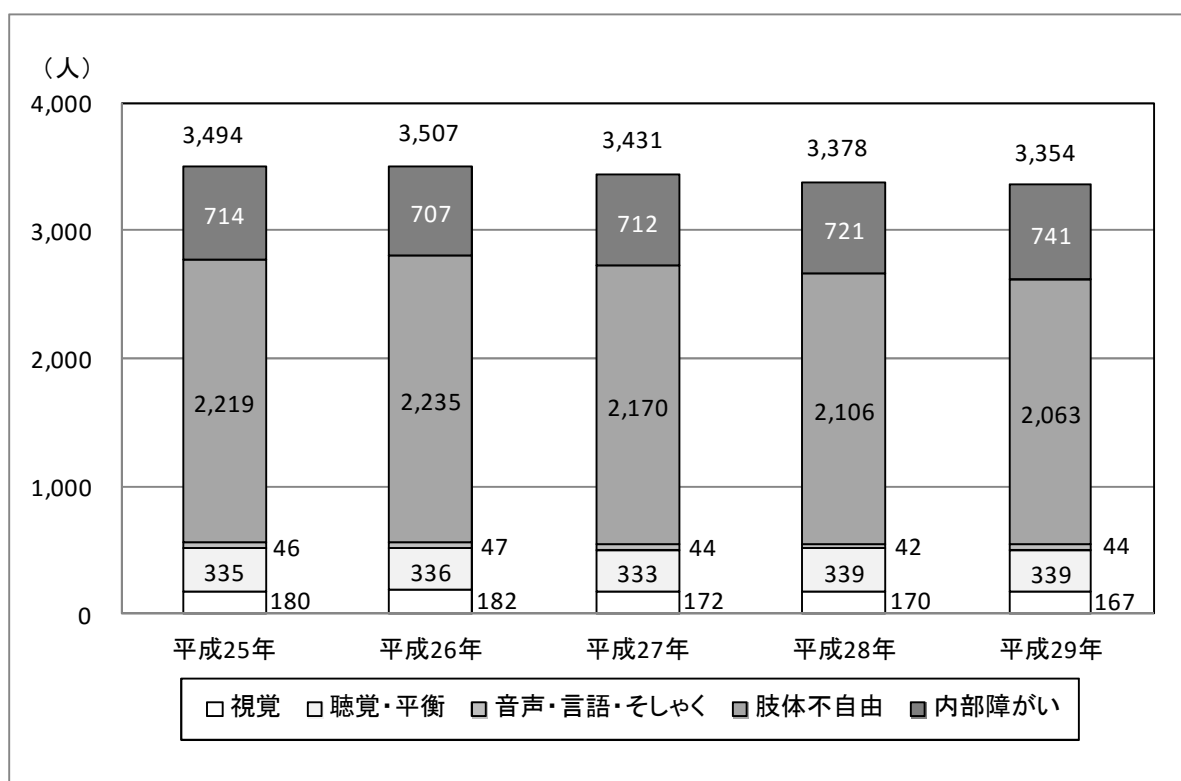
[身体障害者手帳所持者の障がい部位別の状況]

(単位：人)

区 分	視覚	聴覚・平衡	音声・言語 そしゃく	肢体不自由	内部障がい	合計
平成25年	180	335	46	2,219	714	3,494
平成26年	182	336	47	2,235	707	3,507
平成27年	172	333	44	2,170	712	3,431
平成28年	170	339	42	2,106	721	3,378
平成29年	167	339	44	2,063	741	3,354

資料：身体障害者手帳台帳(各年4月1日現在)

[身体障害者手帳所持者の障がい部位別の状況]



等級別の手帳所持状況をみると、1級の手帳所持者が932人と全体の27.8%を占めています。次いで4級が818人（24.4%）、3級が566人（16.9%）の順となっています。

等級別・障がい別の部位でみると、肢体不自由の4級が566人で最も多く、全体の16.9%を占めています。次に、内部障がいの1級が531人（15.8%）、肢体不自由の3級が411人（12.3%）、肢体不自由の1級が346人（10.3%）の順となっています。

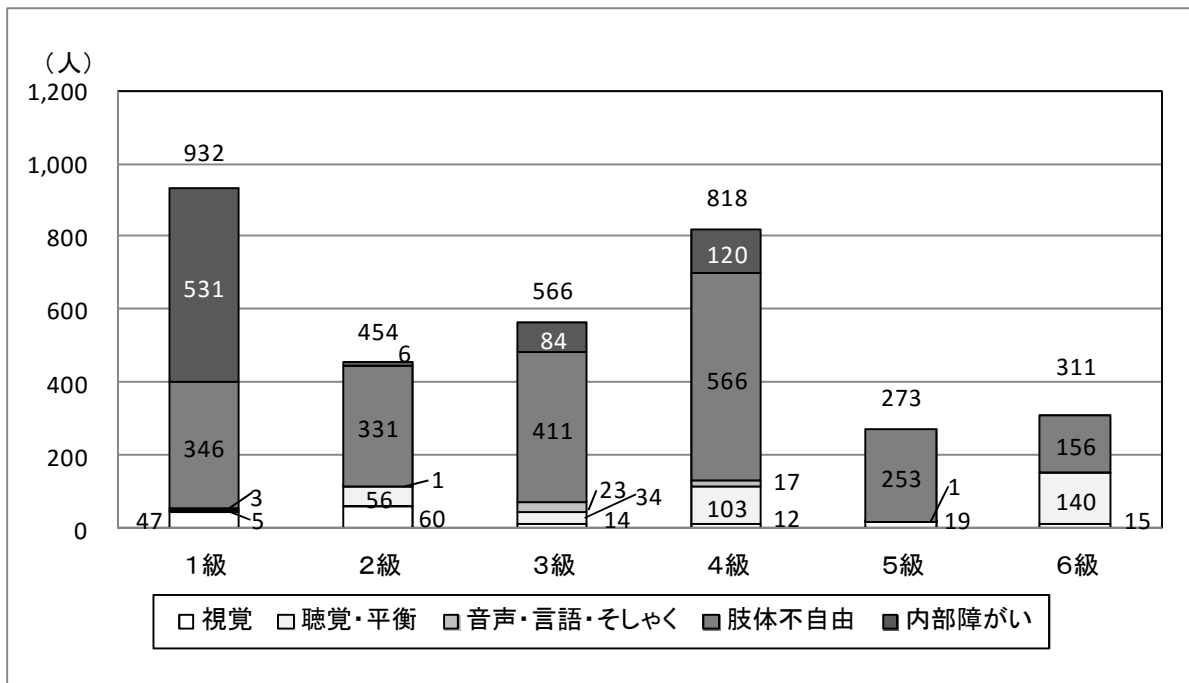
【身体障害者手帳所持者の等級別・障がい部位別の状況】

（単位：人）

区 分	視覚	聴覚・平衡	音声・言語 そしゃく	肢体不自由	内部障がい	合計
1級	47	5	3	346	531	932
2級	60	56	1	331	6	454
3級	14	34	23	411	84	566
4級	12	103	17	566	120	818
5級	19	1	0	253	0	273
6級	15	140	0	156	0	311
合計	167	339	44	2,063	741	3,354

資料：身体障害者手帳台帳（平成29年4月1日現在）

【身体障害者手帳所持者の等級別・障がい部位別の状況】



③ 知的障がいのある人の状況

療育手帳所持者の推移をみると、各年ともB（中・軽度）の所持者が多くなっています。平成29年でみると、A（重度）の所持者の割合が36.6%、B（中・軽度）の所持者の割合が63.4%となっています。

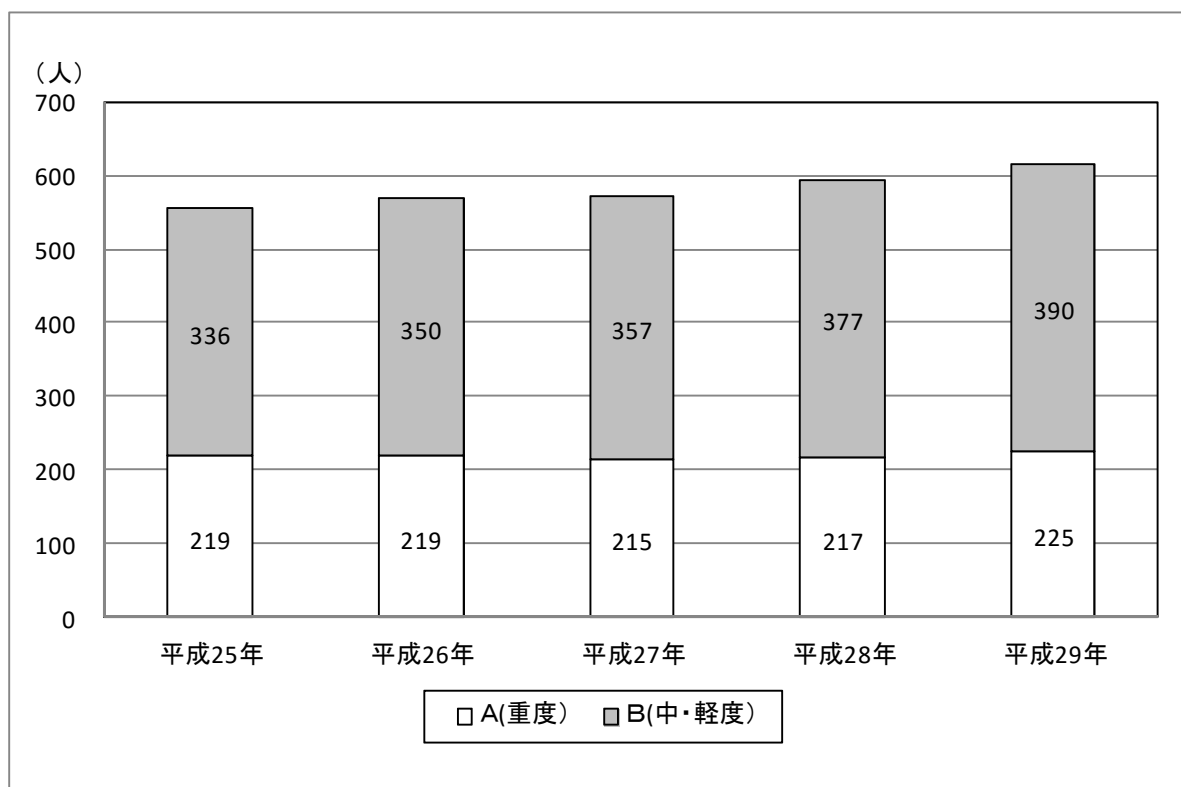
[療育手帳所持者の障がい程度の推移]

(単位：人)

区 分	A（重度）	B（中・軽度）	合計
平成25年	219	336	555
平成26年	219	350	569
平成27年	215	357	572
平成28年	217	377	594
平成29年	225	390	615

資料：療育手帳台帳(各年4月1日現在)

[療育手帳所持者の障がい程度の推移]



④ 精神障がいのある人及び自立支援医療受給者の状況

精神障害者保健福祉手帳の所持者の状況をみると、平成25年から平成29年にかけて増加傾向となっています。平成29年でみると、2級の所持者が375人と全体の82.4%を占め、最も多くなっています。

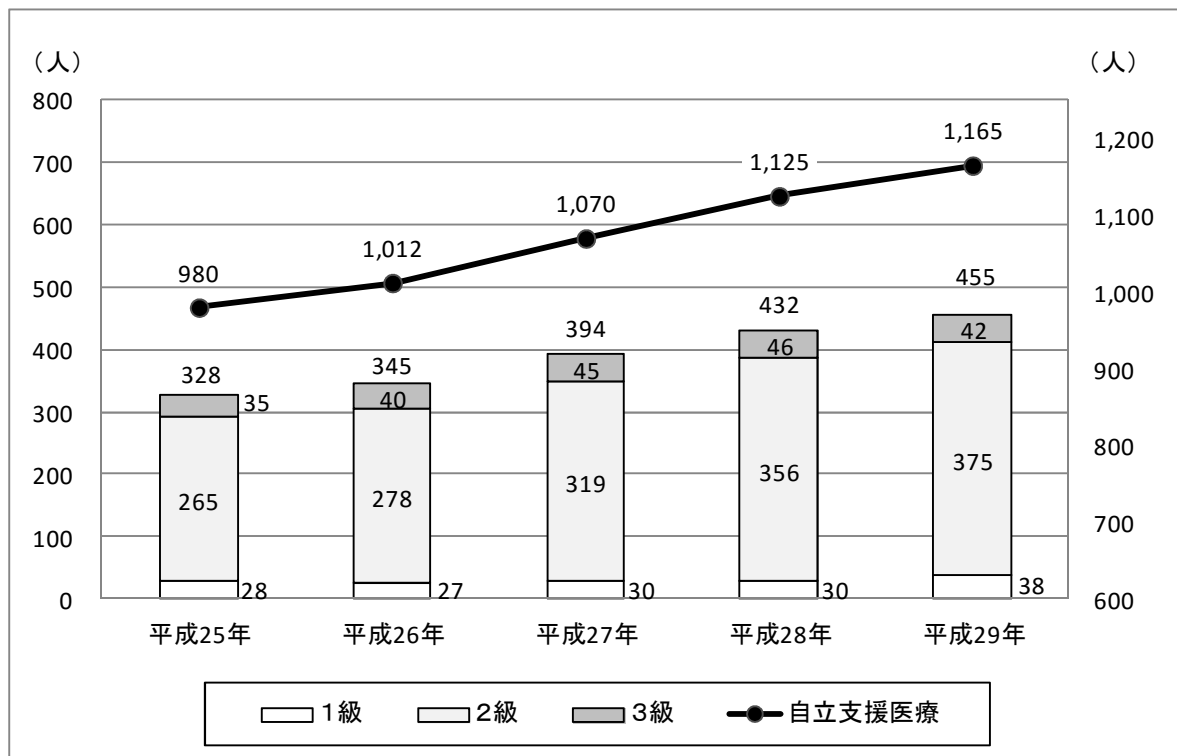
また、精神科、もしくは神経内科等に通院されている自立支援医療の受給者は、平成29年で1,165人となっており、増加傾向となっています。

〔精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療受給者（精神通院医療）の推移〕（単位：人）

区 分	1 級	2 級	3 級	合計	自立支援医療
平成 25 年	28	265	35	328	980
平成 26 年	27	278	40	345	1,012
平成 27 年	30	319	45	394	1,070
平成 28 年	30	356	46	432	1,125
平成 29 年	38	375	42	455	1,165

資料：精神障害者保健福祉手帳台帳(各年4月1日現在)

〔精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療受給者（精神通院医療）の推移〕



⑤ 障害支援区分別の認定者数

障害者総合支援法では障がい福祉サービスの支給決定にあたって、様々な状態の障がいのある人が支援の必要度に応じて公平にサービスを受けられるように、支援を必要とする尺度として平成 26 年度から「障害支援区分」の制度が導入されました（平成 25 年度までは障害程度区分）。区分 6 が最も支援を必要と認定された状態となっています。

障害支援区分別の認定者数は、平成 29 年 4 月 1 日現在 953 人となっています。区分別では、区分 6 が 226 人で最も多く、次に、区分 2 が 203 人、区分 5 が 181 人の順となっています。

【障害支援区分別認定者数】

(単位：人)

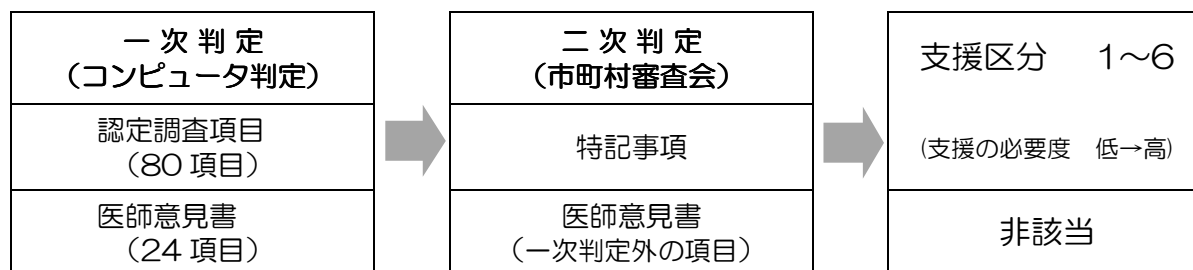
	身体障がい	知的障がい	精神障がい	合計
区分1	3	23	15	41
区分2	37	129	37	203
区分3	41	82	25	148
区分4	38	114	2	154
区分5	52	129	0	181
区分6	139	87	0	226
合計	310	564	79	953

※平成 29 年 4 月 1 日現在

【参考】

障害支援区分は、障がいの多様な特性その他心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものです。

また、透明で公平な支給決定を実現する観点から、それぞれの障がい特性を反映できるよう配慮しつつ「共通の基準」とすることや調査員や審査会委員の主観に左右されにくい「客観的な基準」となるよう配慮されています。



※市町村審査会委員マニュアル（平成 28 年 4 月 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部）より抜粋

2 サービス事業所等の概要

障がいのある人の日常生活を支援する市内のサービス提供事業所は、次のとおりです。

燕市内事業所一覧

平成 29 年 4 月 1 日現在

	事業所名	サービス内容（定員）	運営主体
訪問系サービス	ケアサポート つばめ	居宅介護・重度訪問介護	(有)燕看護婦家政婦紹介所
	燕市社会福祉協議会 介護サービス室	居宅介護・重度訪問介護・同行援護	(福)燕市社会福祉協議会
	ヘルパーステーション 光	居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護	合同会社ヘルパーステーション光
	ホームヘルプサービス ひまわりの園	居宅介護・重度訪問介護	(福)吉田福祉会
日中活動系サービス	つばくろの里	生活介護（70） 短期入所（5）	(福)つばめ福祉会
	障害福祉サービス事業所すきっぷ	生活介護（18） 就労継続支援B型（20）	(NPO)らいふすてーじ
	デイサービスセンターつばめ福寿園	生活介護（*空床利用）	(福)つばめ福祉会
	つばめ第2 デイサービスセンター	生活介護（空床利用）	(福)つばめ福祉会
	つばめ第3 デイサービスセンター	生活介護（空床利用）	(福)つばめ福祉会
	デイサービスセンター白ふじの里	生活介護（空床利用）	(福)つばめ福祉会
	デイサービスセンターひまわりの園	生活介護（空床利用）	(福)吉田福祉会
	デイサービスセンター太陽の園	生活介護（空床利用）	(福)吉田福祉会
	つばめ福寿園 短期入所生活介護センター	短期入所（24） *介護保険サービス含む	(福)つばめ福祉会
	白ふじの里 短期入所生活介護センター	短期入所（空床利用）	(福)つばめ福祉会
	ショートステイ 太陽の園	短期入所（空床利用）	(福)吉田福祉会
	特別養護老人ホーム 分水の里	短期入所（20） *介護保険サービス含む	(福)桜井の里福祉会
	ショートステイ ひまわりの園	短期入所（20） *介護保険サービス含む	(福)吉田福祉会
	燕市社会福祉協議会 就労支援センター	就労継続支援A型（10） 就労継続支援B型（15）	(福)燕市社会福祉協議会
	あったかハート	就労継続支援A型（20）	(福)吉田福祉会

*空床利用とは

施設入所等の定員に空きがある場合に利用している状況を言います。

	事業所名	サービス内容（定員）	運営主体
日中活動系サービス	トム・ソーヤ	就労移行支援（6） 就労継続支援B型（30）	(NPO)アビリティ燕
	ねむの木工房	就労継続支援B型（35）	西蒲原福祉事務組合
	ふれあいの家	就労移行支援（6） 就労継続支援B型（26）	西蒲原福祉事務組合
	夢工場つばめ	就労移行支援（6） 就労継続支援B型（40）	(福)つばめ福祉会
	ワークセンターやすらぎ	就労移行支援（6） 就労継続支援B型（15）	(福)燕・西蒲原福祉会
障害児通所支援	きららにじぐみ	児童発達支援・ 放課後等デイサービス ＊両事業合わせて(10)	(福)吉田福祉会
	きららにじぐみキッズ	児童発達支援・ 放課後等デイサービス ＊両事業合わせて(10)	(福)吉田福祉会
	つばめ療育館	児童発達支援（10） 放課後等 デイサービス（10）	(株)Nose つばめ療育館
	燕市障がい者地域生活支援センター はばたき	放課後等 デイサービス（10）	(福)燕市社会福祉協議会
	デイサービスセンターひまわりの園	放課後等デイサービス （空床利用）	(福)吉田福祉会
	デイサービスセンター太陽の園	放課後等デイサービス （空床利用）	(福)吉田福祉会
居住系サービス	グループホーム	アトム寮（男：6） さくら寮 （女：5） あすなろ寮（男：4） 信コップ寮（男：4） ブーケ 寮（夫婦 男：1 女：1）	(NPO)アビリティ燕
		あきば1号棟（女：4）2号 棟（男：4）とどろき（男：6）	(福)つばめ福祉会
		本体（男：5） サテライト（女：1）	(福)吉田福祉会
		ケアホームにっこり	(NPO)すまいる
		さくら	(福)長岡福祉協会
	つばくろの里	入所施設（40）	(福)つばめ福祉会

	事業所名	サービス内容（定員）	運営主体
地域生活支援事業	障がい福祉サービス事業所 あいこうえん翼	日中一時支援（10）	（NPO）あいこうえん翼
	すきっぷ	日中一時支援（8）	（NPO）らいふすてーじ
	つばくろの里	日中一時支援（1）	（福）つばめ福祉会
	ふれあいの家	日中一時支援（2）	西蒲原福祉事務組合
	ねむの木工房	日中一時支援（2）	西蒲原福祉事務組合
	燕市社会福祉協議会 介護サービス室	移動支援 訪問入浴	（福）燕市社会福祉協議会
	ヘルパーステーション 光	移動支援	合同会社 ヘルパーステーション光
	地域生活支援センター やすらぎ	地域活動支援センター（20）	（福）燕・西蒲原福祉会
	燕市障がい者地域生活支援センター はばたき	地域活動支援センター（20）	（福）燕市社会福祉協議会
	ひまわりの家自立訓練所	地域活動支援センター（17）	（NPO）結
	サポートハウスすまいる分水	地域活動支援センター（10）	（NPO）すまいる
	café さんぼ道	地域活動支援センター（10）	（NPO）リカバリー燕
（相談支援事業） 計画相談	相談支援センター アリス	相談支援	（NPO）アビリティ燕
	相談支援事業所 つばくろ	相談支援	（福）つばめ福祉会
	地域生活支援センター やすらぎ	相談支援	（福）燕・西蒲原福祉会
	燕市社会福祉協議会 はばたき	相談支援	（福）燕市社会福祉協議会
	相談支援事業所 ひまわり	相談支援	（福）吉田福祉会
	つばめ療育館	相談支援	（株）Nose つばめ療育館

3 アンケート調査の概要

□ 調査目的

平成 30 年度を初年度とする「燕市障がい者基本計画・第 5 期燕市障がい福祉計画及び第 1 期燕市障がい児福祉計画」を策定するため、本市における障がい福祉サービスの利用状況等を把握し、計画の基礎資料として「障がい者」対象と「障がい児」対象の 2 つのアンケート調査を実施しました。

□ 調査内容

- 調 査 月：平成 29 年 7 月
- 調査基準日：平成 29 年 4 月 1 日
- 調査対象者：18 歳未満の手帳をお持ちの方、自立支援医療（精神通院医療）、福祉サービスを利用している方
18 歳以上の手帳をお持ちの方、自立支援医療（精神通院医療）、サービスを利用している方（65 歳未満）
※65 歳以上は介護保険が優先適用のため対象外としました。
- 回 収 方 法：郵送による配布・回収

□ 回収結果

18 歳未満	配布部数	204 件
	回収部数	107 件
	回収率	52.5 %
	有効部数	102 件

18 歳以上	配布部数	781 件
	回収部数	403 件
	回収率	51.6 %
	有効部数	393 件

□ 調査結果の見方

- ① グラフ中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。したがって、回答者比率の合計が 100%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答（「〇はいくつでも」等）の設問については、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。

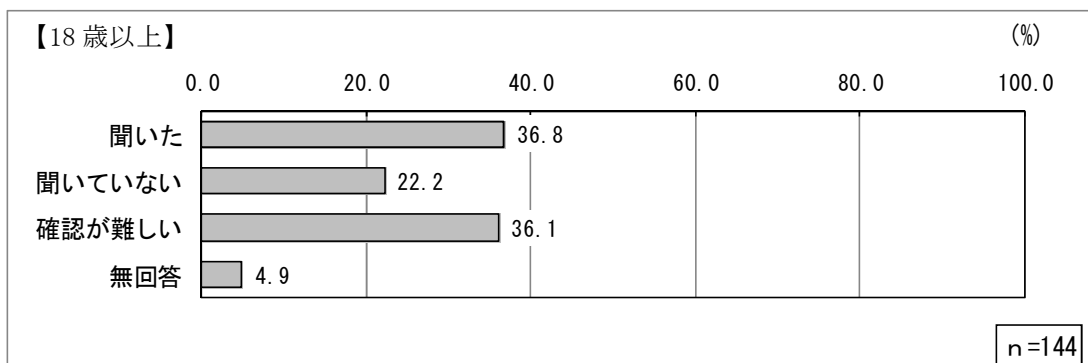
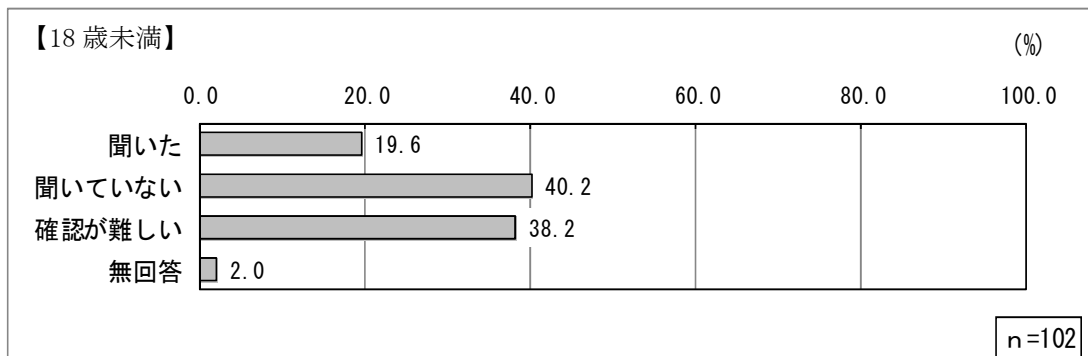
□ アンケート調査（一部抜粋）

① 本人の意見（本人以外が答えた方にお聞きしました）

本人の意見をきかれましたか。（○は1つ）

18歳未満の方は「聞いていない」が最も高く40.2%、次いで「確認が難しい」が38.2%となっています。

18歳以上の方は「聞いた」が36.8%、「確認が難しい」が36.1%とほぼ同じ割合で高くなっています。

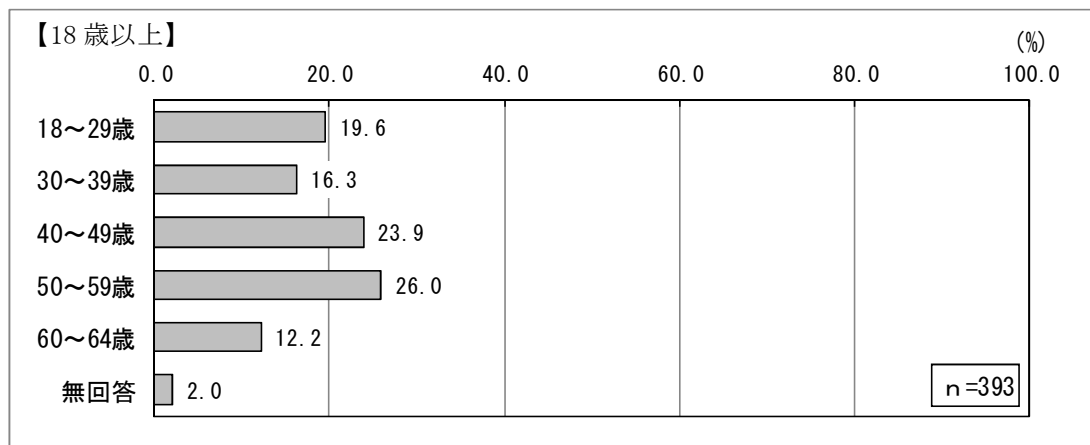
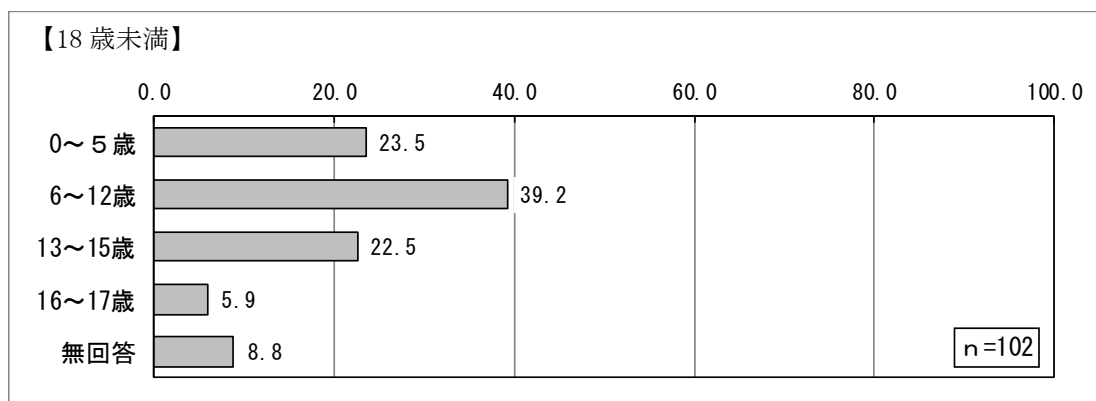


② 年齢

あなたは、何歳ですか。（平成29年9月1日現在）（数字を記入）

18歳未満の方は「6～12歳」が最も高く39.2%、次いで「0～5歳」が23.5%となっています。

18歳以上の方は「50～59歳」が最も高く26.0%、次いで「40～49歳」が23.9%となっています。

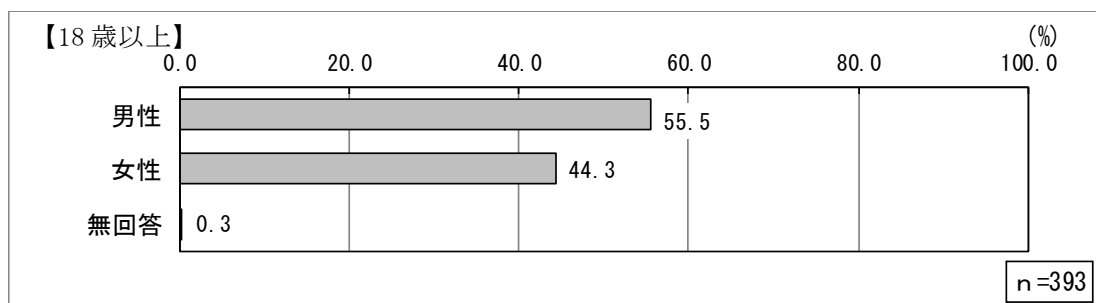
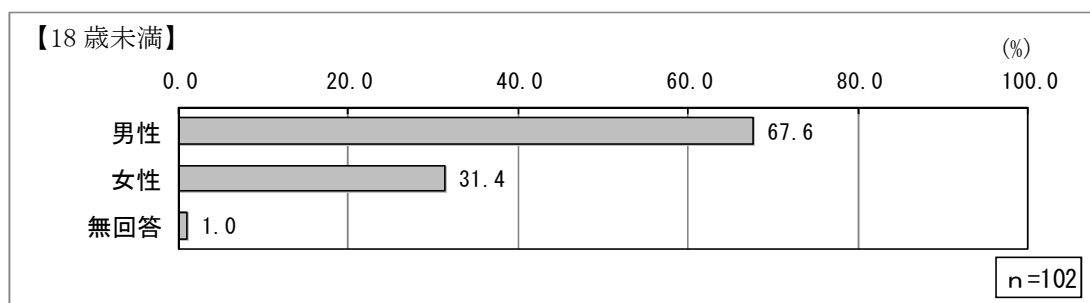


③ 性別

あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

18 歳未満の方は「男性」が 67.6%、「女性」が 31.4%となっています。

18 歳以上の方は「男性」が 55.5%、「女性」が 44.3%となっています。

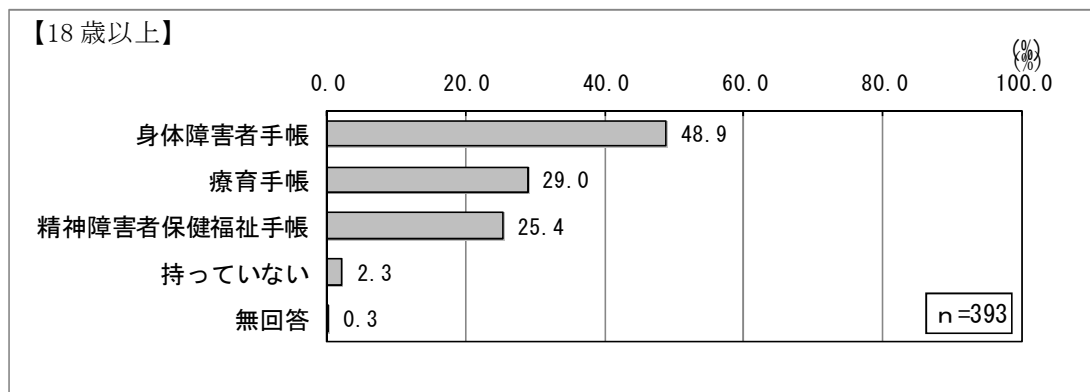
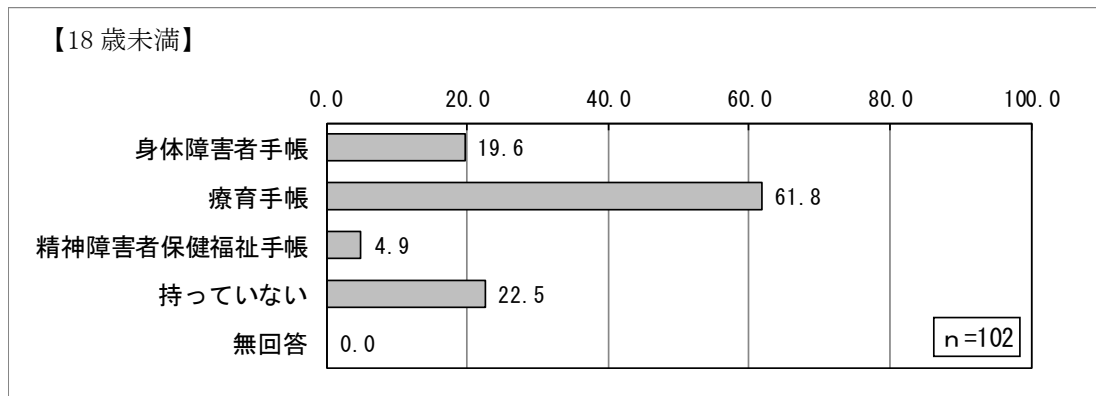


④ 手帳の種類について

現在、お持ちの手帳の種類はどれですか。（〇はいくつでも）

18歳未満の方は「療育手帳」が61.8%、「持っていない」が22.5%、「身体障害者手帳」が19.6%となっています。

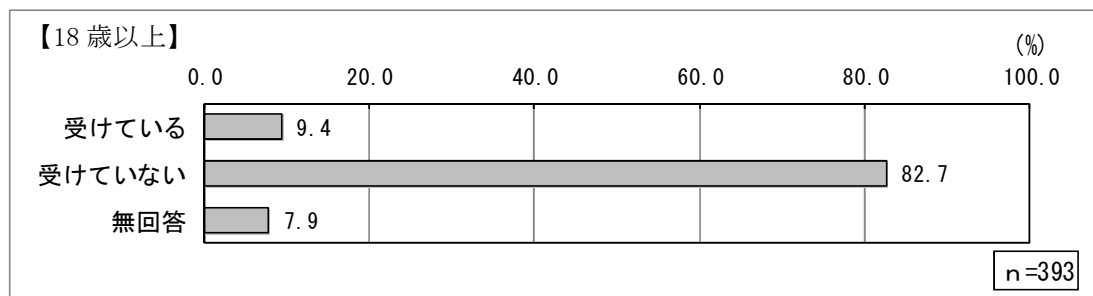
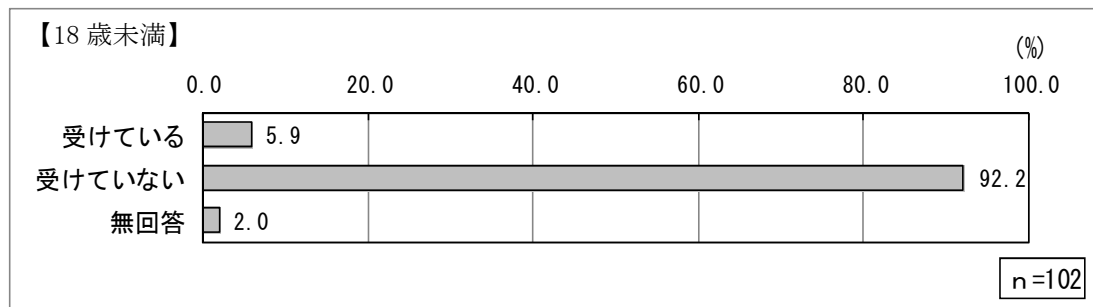
18歳以上の方は「身体障害者手帳」が48.9%、「療育手帳」が29.0%、「精神障害者保健福祉手帳」が25.4%となっています。



⑤ 難病（特定疾患）の認定の有無について

あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。（○は1つ）

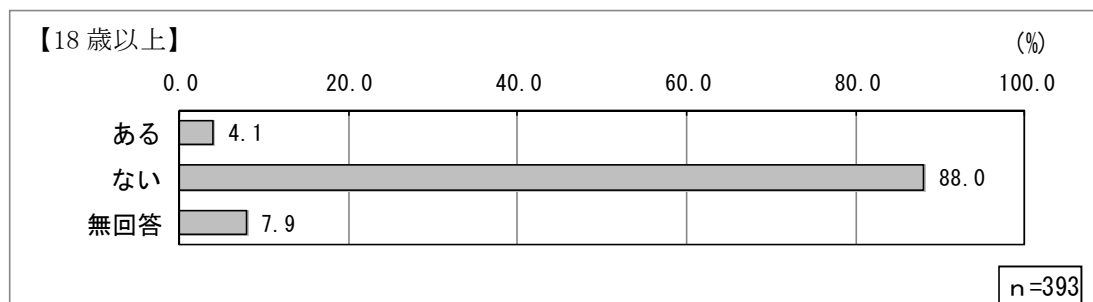
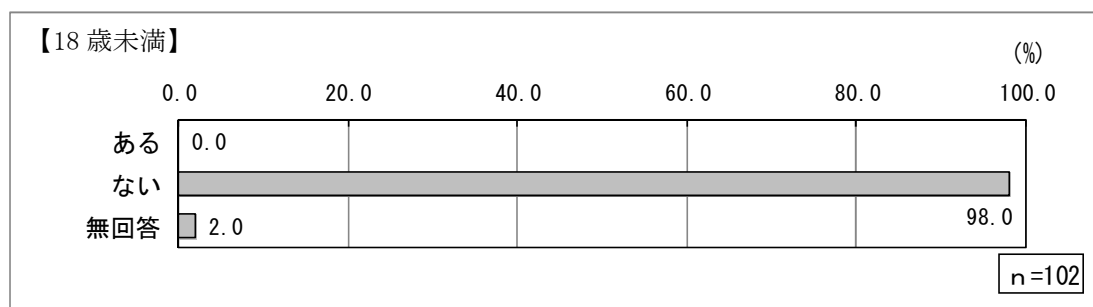
18歳未満の方、18歳以上の方ともに「受けていない」が最も多くなっています。



⑥ 高次機能障がいの診断の有無について

あなたは高次機能障害として診断されたことがありますか。（○は1つ）

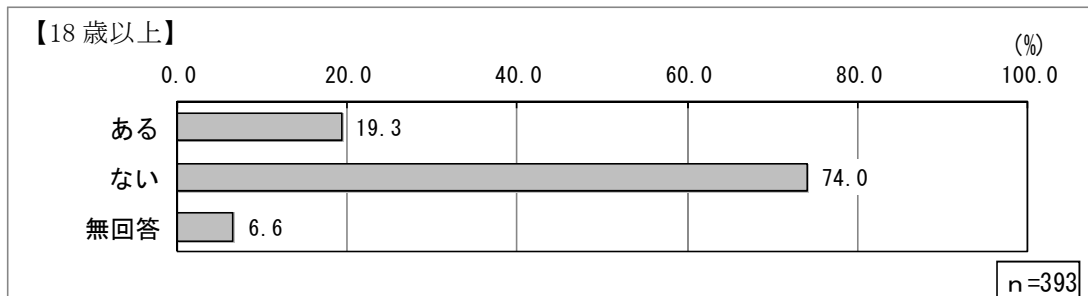
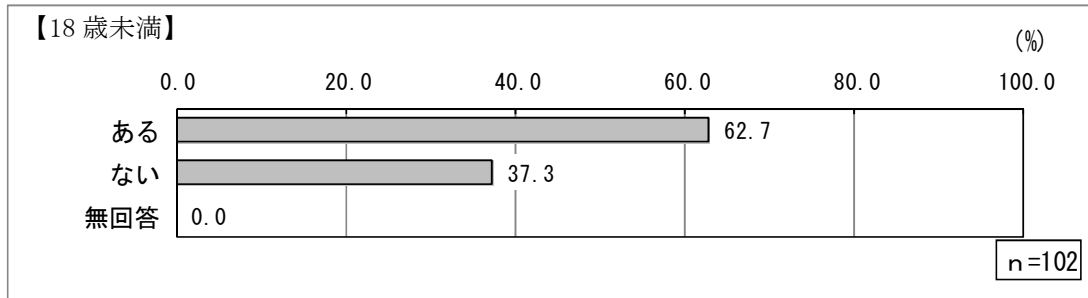
18歳未満の方、18歳以上の方ともに「ない」が最も多くなっています。



⑦ 発達障がいについて

あなたは発達障がいとして診断されたことがありますか。(○は1つ)

18歳未満の方は「ある」が62.7%、18歳以上の方は「ない」が74.0%となっています。

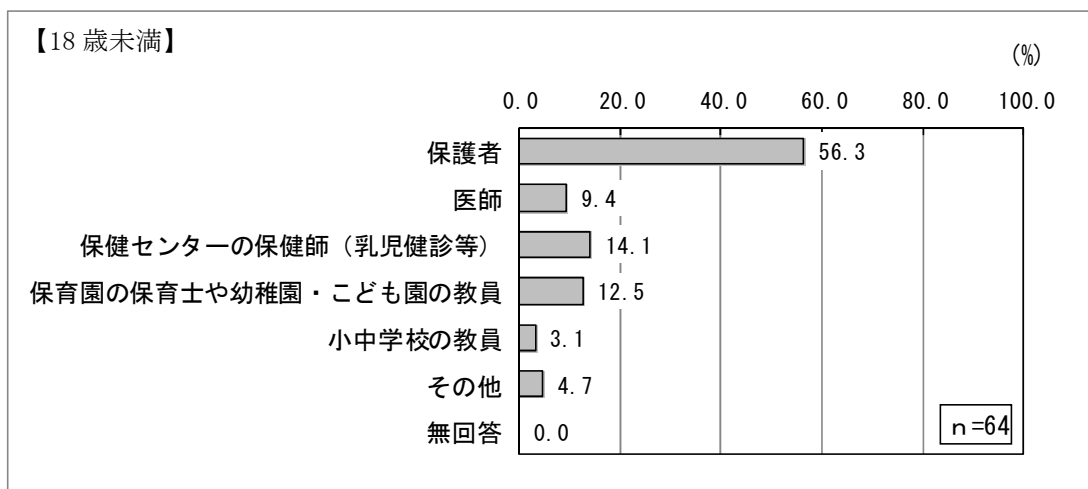


⑧ 最初に気づいた人について

(発達障がいと診断された18歳未満の方にお聞きしました)

どなたが最初に気づきましたか。(○は1つ)

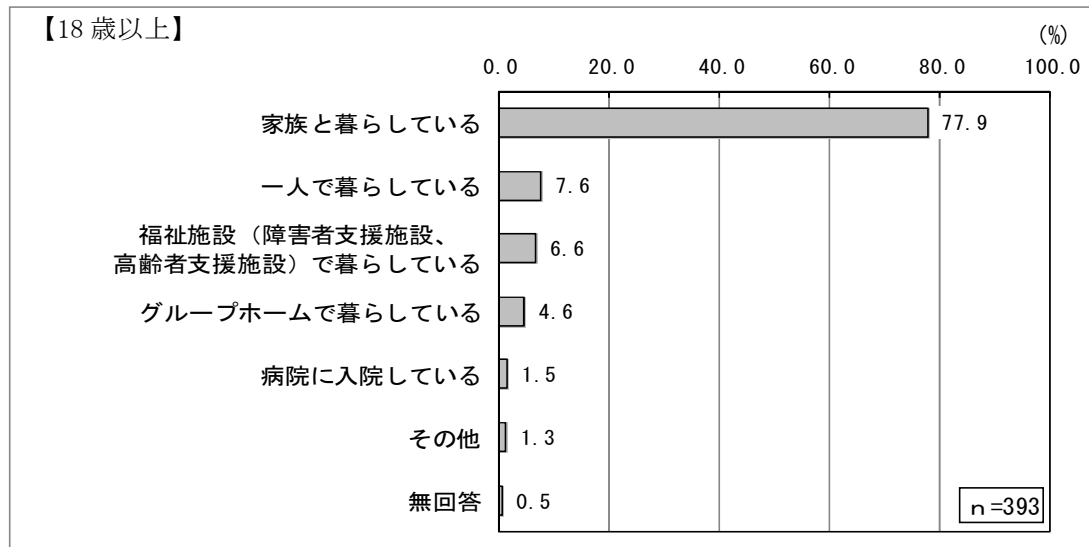
「保護者」が56.3%と最も高く、次いで「保健センターの保健師(乳児健診等)」
「保育園の保育士や幼稚園・こども園の教員」となっています。



⑨ 暮らしについて（18歳以上の方にお聞きしました）

あなたは現在どのように暮らしていますか。（〇は1つ）

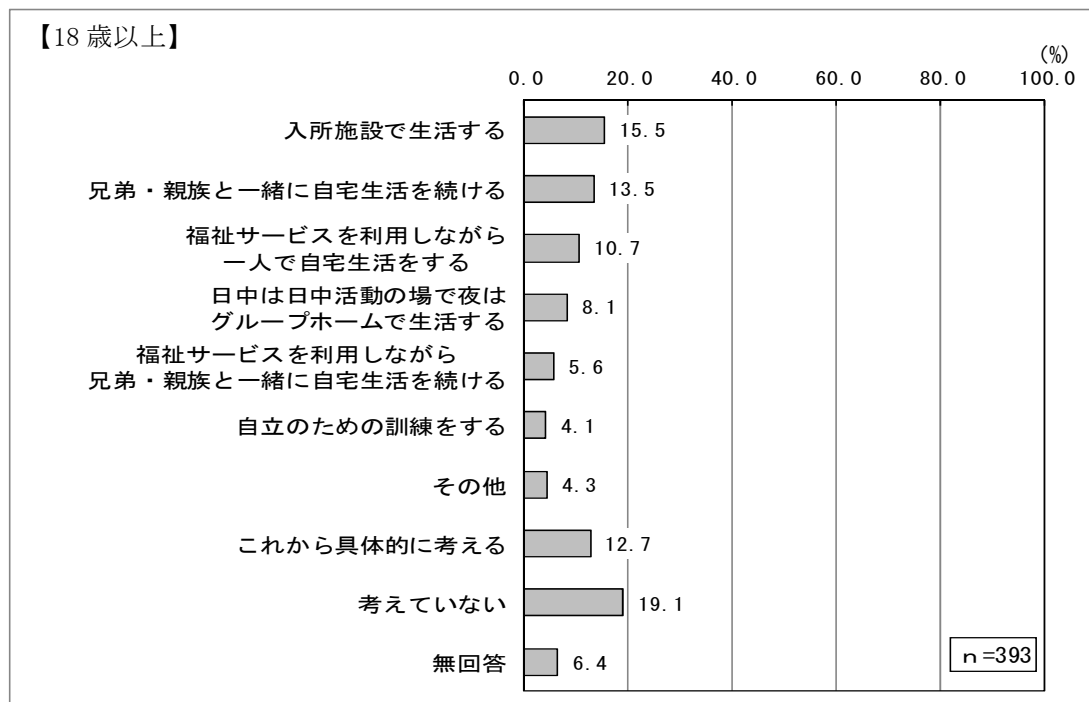
「家族と暮らしている」が最も高く 77.9%、次いで「一人で暮らしている」が 7.6%となっています。



⑩ 親亡き後について（18歳以上の方にお聞きしました）

親亡き後のことをどのように考えていますか。（〇は1つ）

「考えていない」が最も高く 19.1%、次いで「入所施設で生活する」が最も高く 15.5%となっています。



4 就労に関するニーズ調査の概要

障がいのある人の就労に関する実態を把握・分析し、障がい者基本計画・第5期障がい福祉計画に燕市らしい成果目標や施策を盛り込むために実施しました。

□ 調査先

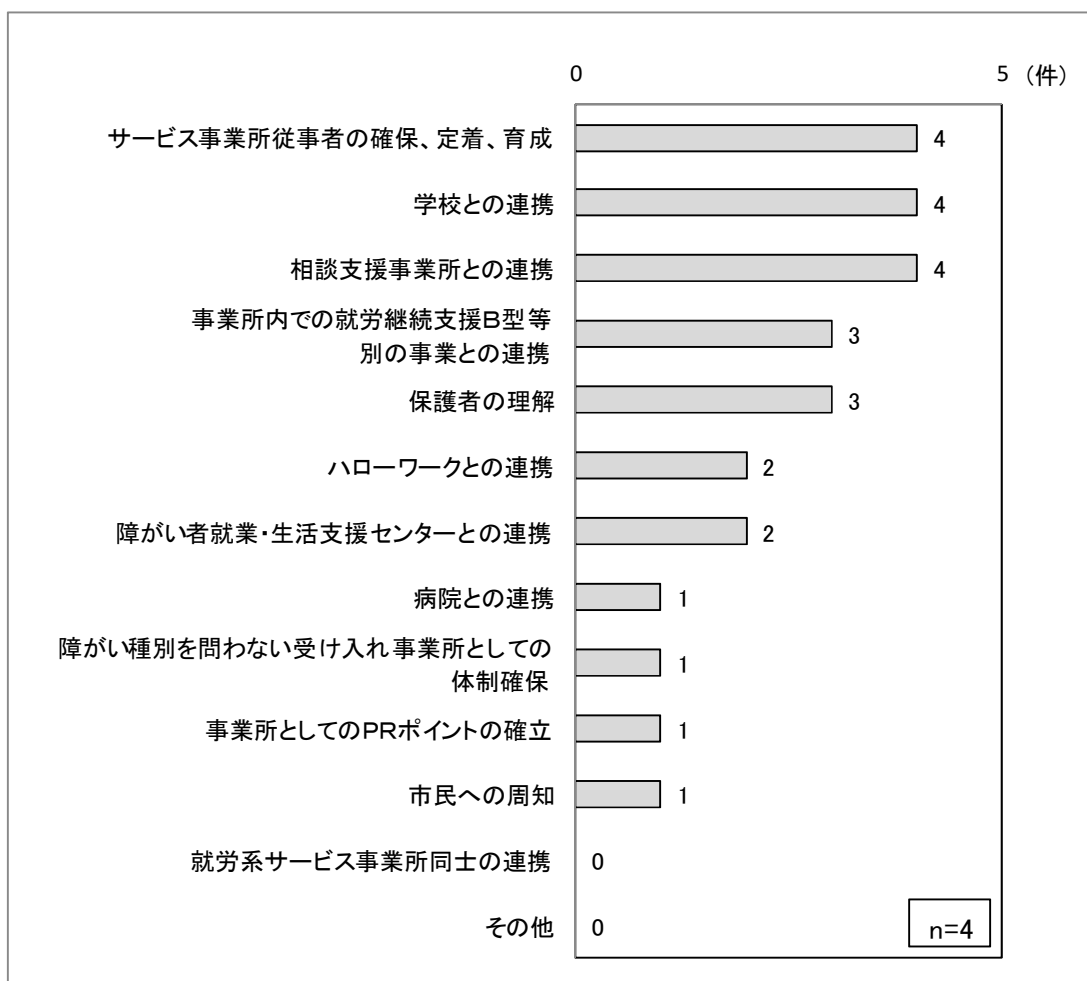
市内の就労移行支援事業所4か所、就労継続支援A型事業所2か所、就労継続支援B型事業所7か所、計8か所（※重複して事業を展開している事業所有）

□ 結果概要

【就労移行支援事業所への調査】

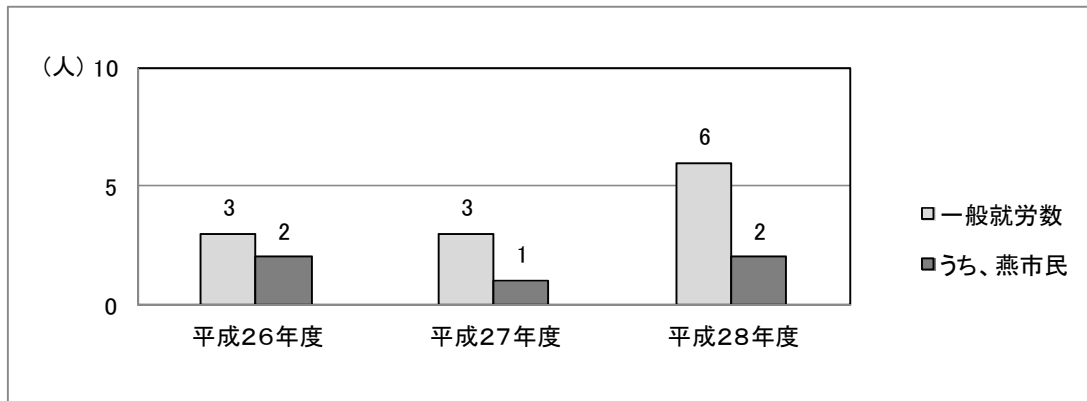
① 就労移行支援事業での利用者確保に必要なこと（〇はいくつでも）

「サービス事業所事業者の確保、定着、育成」「学校との連携」「相談事業所との連携」が最も高く4か所、次いで「事業所内での就労継続支援B型等別の事業との連携」「保護者の理解」が3か所となっています。



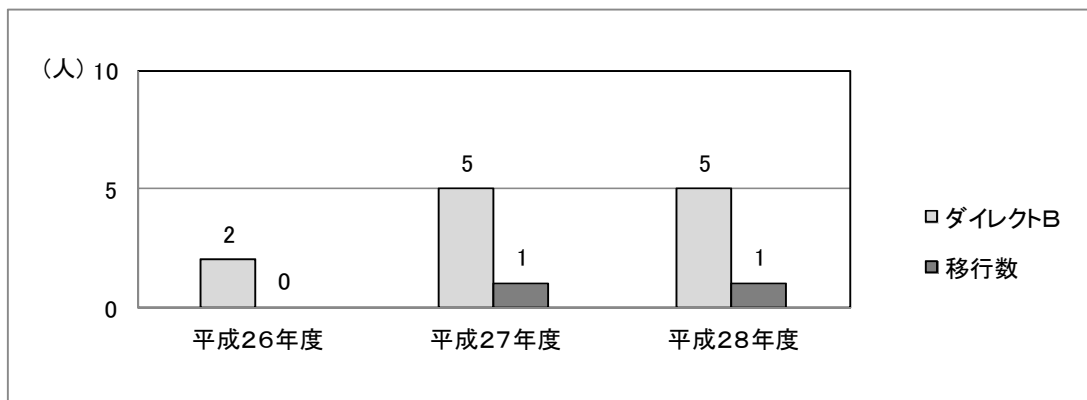
② 学校卒業後直ちに就労移行支援事業を利用して一般就労に至った利用者数

一般就労数は「平成26年度」に比べ「平成28年度」が6人と増加しています。
また、一般就労数のうち、燕市民数は横ばいとなっています。



③ 過去3年間の卒業生のうち、卒業後直ちにB型事業を利用(＝ダイレクトB)した後、就労移行支援事業に移行した利用者数

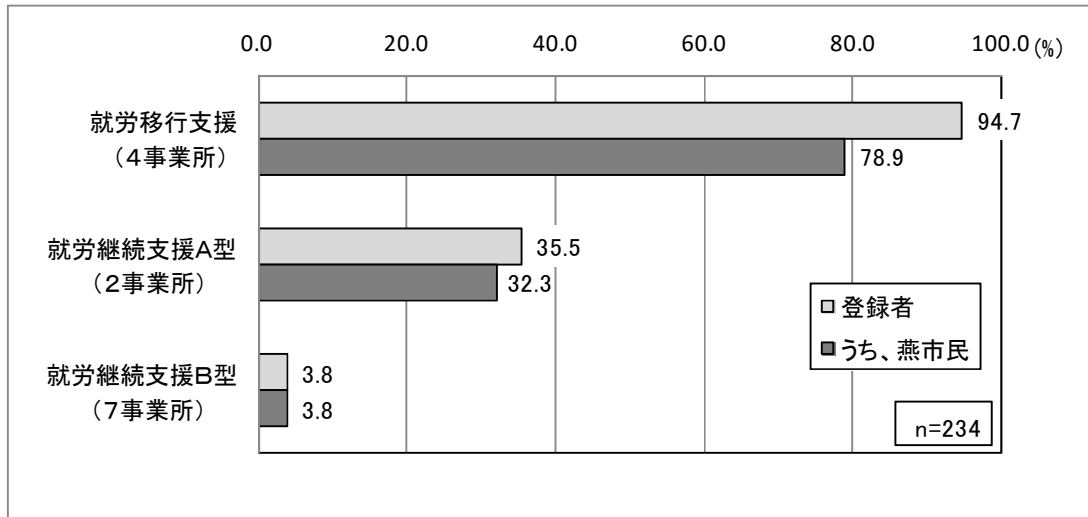
ダイレクトBは「平成26年度」に比べ「平成27年度」「平成28年度」が5人と増加しています。また、就労移行支援事業に移行した数は「平成27年度」「平成28年度」が1人となっています。



【就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型事業所への調査】

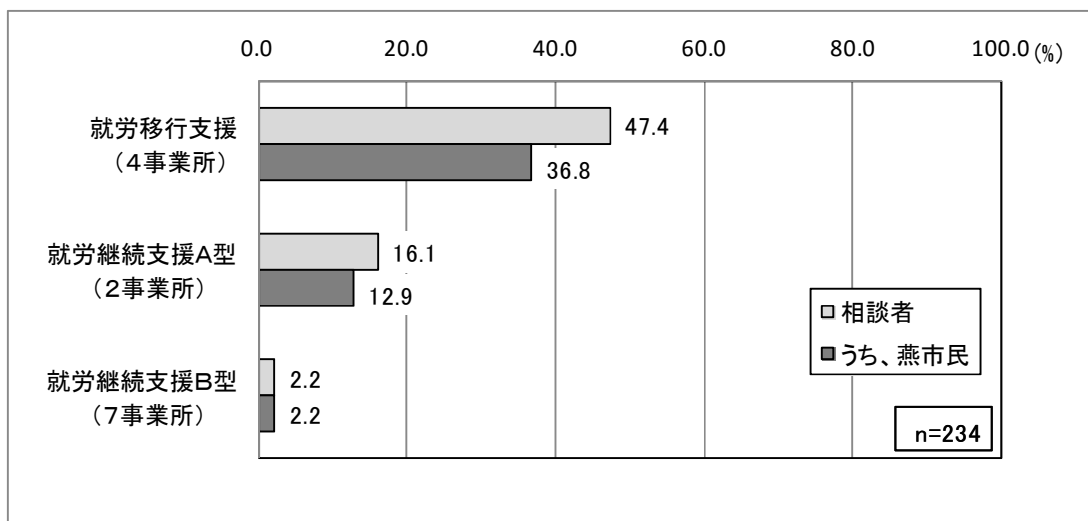
① 利用者の中でのハローワーク登録者数（平成28年度末時点）

登録者数は、「就労移行支援」が最も高く 94.7%、「就労継続支援A型」が 35.5%、「就労継続支援B型」が 3.8%となっています。



② 利用者の中での*障がい者就業・生活支援センターへの相談者数（平成28年度末時点）

相談者数は、「就労移行支援」が最も高く 47.4%、「就労継続支援A型」が 16.1%、「就労継続支援B型」が 2.2%となっています。

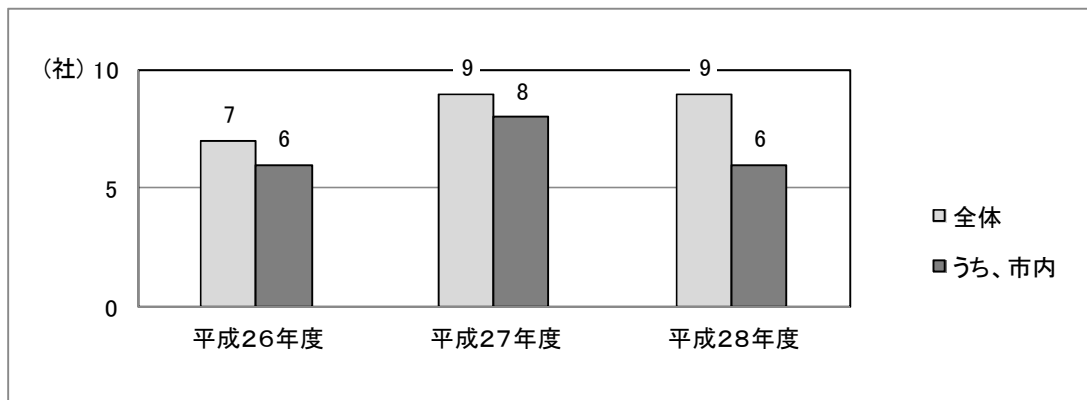


* 障がい者就業・生活支援センターとは

就業を希望される障がい者の方、あるいは在職中の障がい者の方が抱える課題に応じて、雇用及び福祉の関係機関と連携のもとで、就業支援担当者と生活支援担当者が協力して、就業面及び生活面の一体的な支援を行うセンターです。

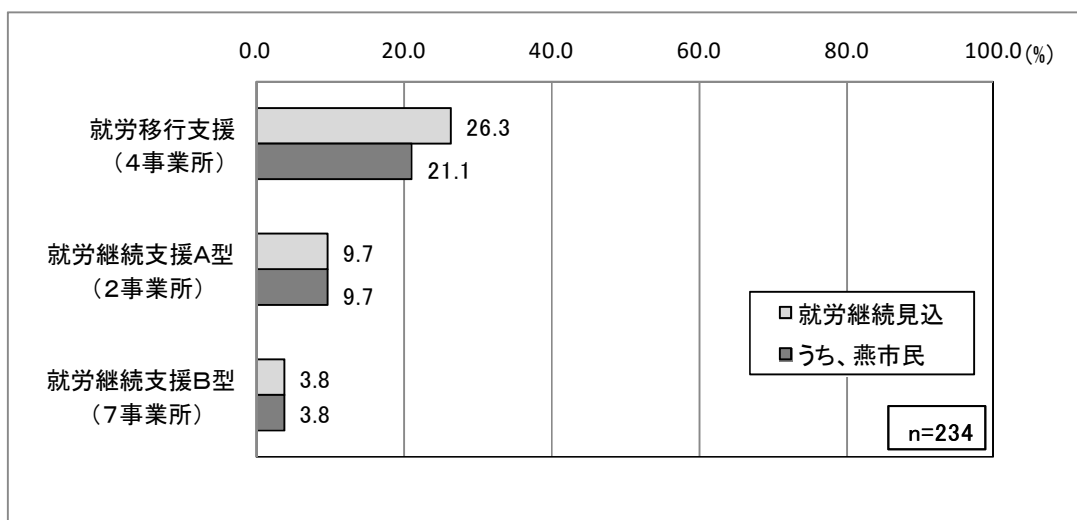
③ 利用者を雇用した企業数

企業数は3年間で合計25社、「うち、燕市内」が合計20社となっています。



④ *就労定着支援を利用することで就労継続が見込まれる割合

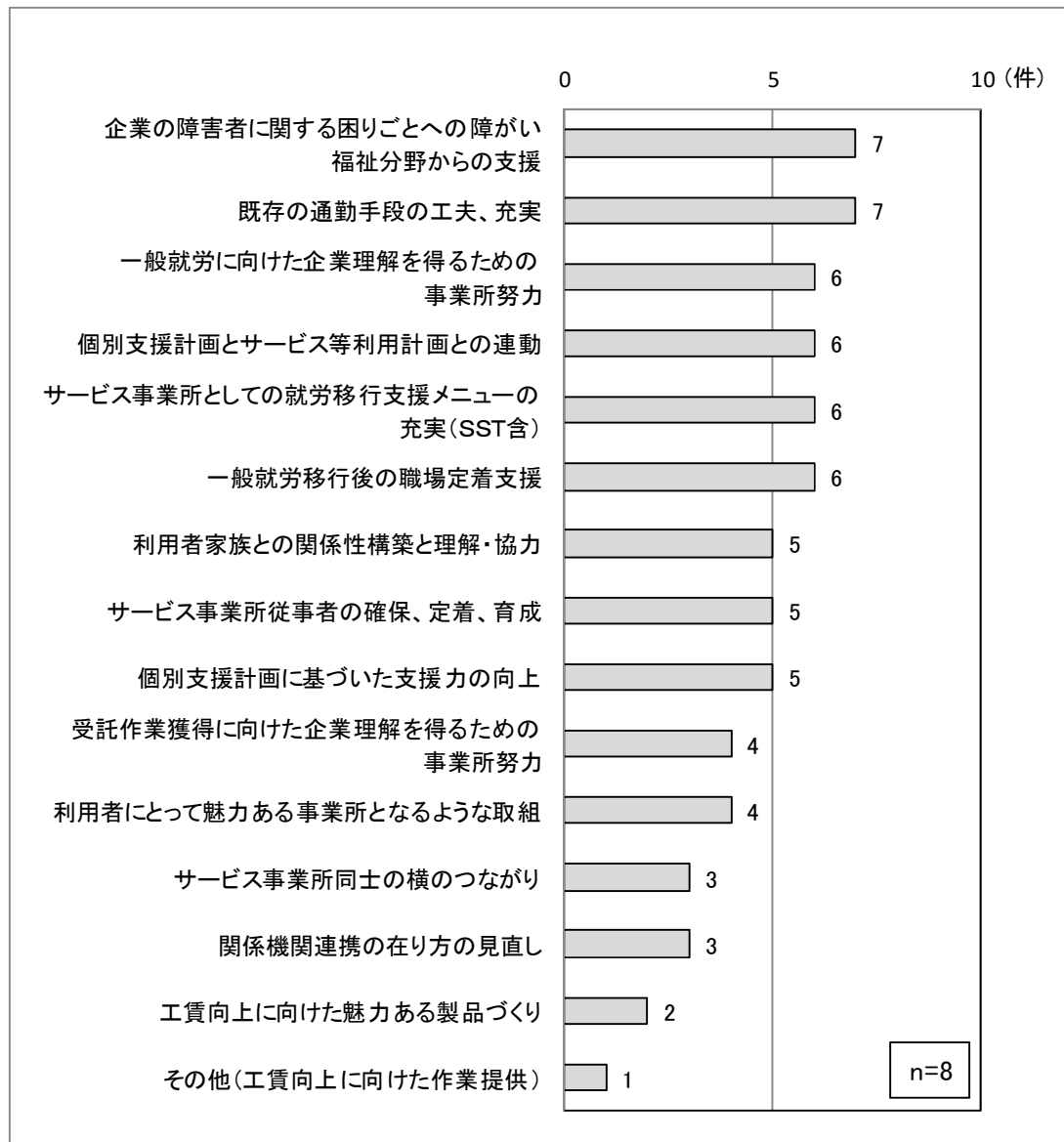
就労継続見込数は、「就労移行支援」が最も高く26.3%、「就労継続支援A型」が9.7%、「就労継続支援B型」が3.8%となっています。



* 就労定着支援とは
就労移行支援等を経て一般就労した方を支援する平成30年4月に創設されるサービスです。

⑤ 福祉的就労の充実と福祉施設から一般就労への移行促進を図るために必要なこと（〇はいくつでも）

「企業の障がい者に関する困りごとへの障がい福祉分野からの支援」「既存の通勤手段の工夫、充実」が最も高く7か所、「一般就労に向けた企業理解を得るための事業所努力」「個別支援計画とサービス等利用計画との連動」「サービス事業所としての就労移行支援メニューの充実（*SST 含）」「一般就労移行後の職場定着支援」となっています。



* SSTとは
社会生活技能訓練（社会生活を送っていく上で必要な対人技能のこと）のことです。